

児童発達支援における自己評価結果(公表)

公表： R5年 3月 27日

事業所名 重症児者多機能型デイサービスあすなろ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	0		
	2	職員の配置数は適切である	9	4		・人手不足を日々感じる ・人員が少ないところがある。手が回らないところがある。 ・職員の勤務希望が優先されている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	13	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13	0		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	5		・「PDCA」の意識はないが業務改善への評価、意見交換は行なっている。 ・C、Aが弱い
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	1		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	3		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	8		・行なっているかもしれないが全員に伝わっていないと思う。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	8	・配信材料・研修や受講資料など共有している。	・研修の機会はあるものの時間の確保はされていない。 ・研修の機会が少ないと感じる。 ・勤務時間内に研修に使える時間(利用者のいない時間)はない。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12	1		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	6		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	4		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12	1		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	11	2		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	2		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12	1		・子どもの事をよく見ているからこそできる活動ばかりで凄いなと感じる。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	3		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	8	・特別に時間を取ってはいないが共有はしている。	・打ち合わせに必要な時間が全くない ・毎日は振り返りの時間が取れない。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	1		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13	0		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	2		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	4		・全ての子どもに実施はされていない。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8	3		・必要な子どものみ。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11	2	・必要時、紙面での報告を行なっている。	・不明 ・保護者の了承を得ているか疑問。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	5		・相互理解されているか疑問。 ・親を通じて連絡している
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	4		・不明 ・親を通じて連絡している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	6		・不明
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	11		・児発はほとんど無いので同じ法人内で交流したい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	11		・どのようなことをやっているか分からない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	1		・送迎時のコミュニケーション、面談など情報共有している。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	8		・不明 ・内容が分からない。職員同士でも話に出ない。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0		・丁寧とは。 ・契約時に説明し同意を得ている。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12	0			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	1		・定期的、必要時に声かけを行なっている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	6		・コロナ禍で実施できていなかった。 ・できていないと思う ・季節の保護者参加型のイベントで茶話会を企画、好評だった。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	7		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	11	1		・個人的に保護者と連絡を取り合っているスタッフがいます。 ・個人的に友人として保護者や他事業者とやり取りをしているスタッフがいます。指導したが法人として了承していることに疑問を感じる
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	8		・理解できてない
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	3		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	2		・不明 ・十分ではないので今後準備、実施する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10	2		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	0		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	1		・あまり更新されていない。 ・記録は共有できるが、意識は低い。事故防止への意識づけが必要。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	2		・研修会有の周知はあるが参加の為の時間確保がされていない。 ・あっても参加できない
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10	0		・身体拘束はしていない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。